

令和4年度

第2回草津市認知症施策推進会議 会議録

令和5年2月22日

草津市長寿いきがい課

第2回 草津市認知症施策推進会議 会議録

◎日時 令和5年2月22日（水）午後2時30分から午後3時50分まで

◎場所 草津保健所 3階大会議室

◎出席委員

委員	金森 雅夫委員	委員	新村 真喜子委員
委員長	宮川 正治委員	委員	田辺 晶委員
副委員長	中野 悦次委員	委員	中村 敏治委員
委員	服部 静香委員	委員	青木 裕未委員
委員	アンドン 美加子委員	委員	関根 秀子委員
委員	松永 将孝委員	委員	渡邊 邦子委員

◎欠席委員

委員	上野 京委員
委員	原田 節子委員

◎事務局職員

健康福祉部	永池 部長
	安藤 副部長
地域保健課	松尾 課長
介護保険課	高阪 課長
	木村 参事
	島川 課長補佐
長寿いきがい課	松本 課長
	力石 課長補佐
	青木 課長補佐
	川越 主査

◎議題

1. 開会

2. 議事

(1) 草津市認知症初期集中支援チームの活動状況について

(2) 認知症当事者の本人ミーティングについて

(3) その他

3. 閉会

1. 開会 午後2時30分

<草津市附属機関運営規則に基づき、本会議が成立していることを報告>

<健康福祉部長から挨拶>

2-(1). 草津市認知症初期集中支援チームの活動状況について

○事務局

<資料1に基づき説明>

○委員長

初期集中支援チームの活動について、少し補足をする。かつては、認知症があつて様々な問題が起こっている状態の方に対して、保健所の精神保健領域の保健師を中心に、精神科医も関わりながら対応していた。高齢化社会に入り、認知症の人が増えてきたことや、保健所から市町村に業務が移譲されたこと、また、地域包括支援センターの制度が発足したことから、それ以降は地域包括支援センターを中心に対応を行うとされた。

ところが、地域包括支援センターには必ずしも精神保健領域の専門家が配置されているというわけではなく、認知症に関する相談や介入に十分対応できない場合があるという課題があつたため、その課題を解消するために認知症初期集中支援チームという制度ができた。支援対象になる方の主なケースはどんな方かというところ、一つはゴミ屋敷問題のように、孤立した生活を送っている方が対象になっている。二つ目は被害妄想や激しい精神症状が現れていて、介入を拒む方。三つ目は、高齢者の方が元々発達障害を持っておられ、上手く対人関係を作れない方が認知症になつていった問題など、通常の医療や介護の枠組みにフィットしてもらえないケースである。こうしたケースを対象に、認知症初期集中支援チームが介入し、医療や介護サービスにつなげていくことで、問題を軽減していく活動をしていると理解していただけると良い。

認知症初期集中支援チームの活動に関して、御質問や御意見があればぜひいただきたい。

○委員

自分の認識では、認定を受けていない方、サービスにつながらない方が中心に対象になっていると思っていた。介護申請もされていないような方を、どのように対象者として把握されるのか。地域の方からの情報提供等があり、アプローチをしていくのか。

○事務局

地域の方からの地域包括支援センターへ相談があるケースや、同居家族がおられる場合は、御家族が対応に困り、市や地域包括支援センターへ相談され、対応が難航してチームに相談いただくケースなどがある。

○委員

令和5年度は相談ケースが5件あり、支援対象者も5件ということだが、それまでは必ずしも全てが支援対象者になるということはないようだが、これは支援できる人数に限りがあることが理由か。

○事務局

人数制限のためではなく、認知症の症状によるものではないと判断した方などは対象外としている。また、訪問する前に何らかのきっかけで支援が上手く進み、介入の必要がないと判断された場合なども対象外としている。

○委員

訪問回数としては、支援期間約半年の間に2回程度か。

○事務局

3回程度になることが多い。対象者の状況把握を行うために1回、支援のために1回、サービスが定着しているか、生活状況は良好かなど、支援後の状況確認のために1回、計3回訪問することが多い。

訪問やサービス導入に対して拒否され、支援が難航する場合については、回数を重ねて訪問することもある。

○委員長

対象にならなかったケースの中には、地域包括支援センターがチーム員会議であらかじめチームに相談され、その場でチーム員が助言を行うことで、地域包括支援センターが継続して支援を行える場合があり、結果的にチーム員が訪問しないケースも一定数あった。

○委員

地域包括支援センターについて、自分の学区では、地域包括支援センターと民生委員の交流会を行い、民生委員の活動について意見交換を行っている。しかし、こちらとしては地域包括支援センターがどのような仕事をしているのかを知りたい。

今年は新たな試みとして、2つの地域包括支援センターと民生委員の交流会を開催した。地域包括支援センターは初期集中支援チームの取組においても重要な役割を担っていると思うので、地域包括支援センターの機能強化に取り組んでいただきたい。

○委員

民生委員として活動しているが、地域包括支援センターとのつながりは非常に深い。今年は85歳の方のお宅を回ったが、その際も一緒に回り、地域包括支援センターのチラシを配るなどPRをしていただいた。高齢者の集まりにも来てもらい、色々な話をしてもらおうなどの機会を作るようにしている。いろいろな地域で、もっと交流を持てるような工夫が必要だと思う。

○委員長

お二人の委員から地域包括支援センターの活動について御意見があったが、地域包括支援センターについて、市の取組や現状認識について、お教え願いたい。

○事務局

地域包括支援センターは委託業務を開始して10年になるが、最近若い世代の地域包括支援センターの認知度も上がってきていると感じている。

複合的な課題を抱える世帯や、認知症の方で老々介護をされている方や独居の方が増えてきており、介護保険サービスのみで地域で暮らし続けることは難しいことが多いため、地域包括支援センターも、民生委員や学区社協など、様々な関係団体

と連携をとりながら、地域の現状をお伝えし、一緒に地域の課題について考えていけるよう取り組んでいる。

○委員長

初期集中支援チーム会議においても、圏域ごとに上がってくるケース数にばらつきがある。多ければいい、少なければいい、というものではないが、何かしら、活動の仕方に違いがあるのかもしれないので、地域包括支援センター同士の交流をしていただけるとよいのではないかと思う。

2 - (2) . 認知症当事者の本人ミーティングについて

○事務局

<資料2に基づき説明>

○委員長

資料2の9ページに、①～⑦まで項目立てて列挙されているが、草津市で本人ミーティングを実施するために、委員のみなさんのアイデアをいただきたい。

○委員

新たに作っていくのも一案だが、西一会館で実施されている認知症カフェでは、集まってお茶を飲んだり話したり、本人ミーティングと似た活動をされているので、既存の集まりを活用してはどうか。

○事務局

西一会館に加え、最近では老上西学区でも認知症カフェが新たに立ち上がっているため、そちらにも提案してみたいと思う。

○委員

本人ミーティングの「本人」とは、認知症患者のことを指すのか。西一会館に来られている方は、まだ認知症にはなっておられない方が多いように感じる。

○事務局

そのとおりである。数は少ないが、西一会館にも認知症の方は参加されている。本人ミーティングの参加者を募るにあたり、ある程度個別に声をかけることも必要だと感じている。自ら発信したい、発言したいと感じておられる認知症の方をどこで見つけることができるか、という点についてもアドバイスをいただきたい。

○委員

認知症は特別な方になるものではなく、誰もがなりうる病気であるということについて、本人も周囲も理解を進め、認知症に対するネガティブな見方を払拭していく必要があると思う。そうすることで、家族も認知症であることをオープンにでき、また周りも気軽に声をかけることにつながり、本人も安心できるのではないか。

本人ミーティングはどの程度の病状の方が参加できて、どういった話ができるのだろうか。

○委員

訪問看護で認知症の方と関わっているが、認知症と診断されながら、お一人で生懸命生活されている方も多い。何に困っているのか、という問いをきっかけに話し始めたりするので、訪問看護師を中心に、デイサービスの中にも、そういった方が通っておられるので、その中で何人かで集まって、何に困っているのか、という話から始めていくという方法も一つではないか。

○委員

デイサービスをやっていて、ほとんどの方が認知症の診断を受けておられる。その中で、認知症であるという自覚を持っている方は非常に少ないが、そういった方の声を拾い上げるということは大切だと思っている。事業を運営していくことに必死ではあるが、聞き逃してはいけないことはたくさんあるし、サービスにつながったがゆえに切り離されてしまった社会とのつながりもあると思う。そういう方々が出かけられるような場所を作ることが必要。何をするか決まっていなくて、ではなく、そこに来ることで食事ができるとか、何か目的があればそこに来てくれるのではないか。それをどこが主体とするのか、という点においては、費用も発生することが考えられるので、国が推進している伴走型支援事業交付金等を活用していけると良いのではないか。

以前、若年性認知症の方が診断を受け、働きたかったが働けなかった方がいた。うちのデイサービスを利用できないか、という相談を受けたことがあったが、その方は働きたいという意思があるとのことだったので、デイサービスの利用は違うだろうということになり、それまでやってこられた仕事が車関係のお仕事だったので、事業所の車を洗車してくれるかと頼み、引き受けていただいた。症状が進行し、長くは続かなかったが、朝迎えに行って夕方に帰るまでの間の2時間だけ雇用する形をとっていた。診断を受けてからデイサービスにつながるまでの、閉じこもっておられる空白期間をどのように埋めていくかが大切だと思う。

○委員

成年後見制度の中で認知症の方に関わることが多いが、「認知症の方の集まり」と限定すると、知り合いになった後は来やすいと思うが、知らない人ばかりの場所に1人で参加できる人はかなり限られてしまうと思う。最初は認知症の人とそうでない御友人の方が一緒に参加し、仲良くなってから、認知症の人だけで別途集まると良いと思う。最初から認知症の方だけに限定してしまうと、なかなか集まりにくいのではないかな。

高齢者の方の集まりにおいて、デイサービスもそうだが、男性や若年性認知症の方は、一度参加されても「話が合わない」等の理由で継続して参加されなくなることも多く、結局高齢女性だけの集まりになってしまう。こちらが普段気づくことができないような意見を聞き取れるよう、男性にも来てもらう工夫が必要。たとえば、麻雀をする日があるデイサービスでは、その日だけ男性参加者が多いということもあると聞いている。男性の方が来やすい回なども設け、その後にお茶を飲みながら話し合っていたりなど、何かと組み合わせて実施すると良いのではないかな。

○委員長

数の話で言うと、先ほど委員がおっしゃった初期の人、軽度認知障害の方は草津市でいうと少なくとも3千人以上で、数としては多くいらっしゃる。ただ、そういった方が会議に参加されるかという、なかなかハードルが高いのではないかなと思う。どうやってそれを周知したり、その気にさせたりできるか、アイデアがあれば御意見いただきたい。

○委員

人数規模はどれくらいで考えているのか。どの程度の人数の意見を聞き、どのように集約した意見を施策に活かしていくのか。

○事務局

規模として、4～5名程度を考えている。1箇所とするのではなく、理想としては色々な地域やデイサービスなど、元々本人同士が顔見知りの関係があるところで、小規模で複数できると良いと思っている。ミーティングの中で出た意見も、他市町のお話をお聞きしていると、1回のミーティングで完結するものではなく、ミーティングの回数を重ねていく中で、本人の思いを聞くことができるものだと思っている。本人同士が思ったことを言い合える関係になってから、行政の立場で聞いてみたい事をテーマの1つとして取り扱っていただければと思っている。本人ミーティングでは、行政が掲げたテーマだけを話していただくのではなく、本人が日々感じている困りごとについて、生の声を聞きたいと思っている。

○委員

町内単位というイメージか。認知症といっても症状は幅広く出ると思うが。

○事務局

ゆくゆくはそういった小さな単位でできればと思っている。ただ、先ほどの御意見にもあったように、まだ認知症に対する理解が十分でないところがあるので、事業を進めていく中で、本人の声も聞きながら、より参加しやすい形を考えていきたい。対象者は本人ミーティングの場で自分の思いを発信できる方なので、軽度の方に限定することになる。

○委員

医療の世界では「患者から学べ」という言葉がある。

患者同士がお互いに話し、それぞれの生き方を知ることは、我々にとっても学びとなり、重要な事であると思う。実際、過去にクリスティーン・ブライデンさんと話したことがあるが、様々な工夫をしながら生活をされていて、患者と話し合うということも非常に重要だと感じた。

○委員長

本人ミーティングを通して、草津市が施策を考える参考にするということだが、内容によっては、市のホームページや広報等に掲載されるなど、広く市民の方が当事者の方の声に触れることができると良いと思う。

○事務局

参加者の同意等が得られれば、本人の声を市民の方に届けていけるような形を考えていきたい。

○委員

先ほど出た認知症のネガティブさを払拭する、という御意見について、大切だと思う。本人も家族も、認知症であることを恥ずかしいと思っておられ、なかなか表に出てくることができない。

認知症の人たちが集まって旅行をしたり、テレビで色々な発言をされるなど、活発に活動されている映像等を通じて、認知症が持つネガティブなイメージを払拭することにつながると思う。今の状態ではなかなか外に出てきてもらえないのではないか。

○委員長

いろいろなアイデアを出していただいたので、今日の御意見を活かし、本人ミーティングの企画を具体的に進めていただきたい。

2 - (3) .その他

○事務局

令和5年度は認知症施策アクション・プラン第4期計画の策定年度となるため、会議は年4回を予定している。お忙しいところ恐縮だが、出席をお願いします。

4. 閉会 午後3時50分
